

生活

身近な生活に関する見方・考え方を生かし、気づきの質を高める授業づくり

生活科は、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関する見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することをねらいとしています。そのためには、**体験活動と表現活動**（言葉、絵、動作化、劇化などの多様な方法）が繰り返される**学習過程**を大切にし、**児童の気づきの質を高める工夫**をする必要があります。

「身近な生活に関する見方・考え方」とは

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとするのでありと考えられる。

生活科でいう「気づき」とは

対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるもの（知的な側面だけではなく情意的な側面も含む）。

気づきの質の高まり（深い学び）とは

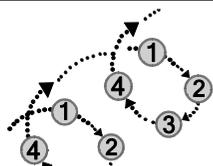
無自覚だった気づきが自覚されたり、一人一人に生まれた個別の気づきが関連付けられたり、対象のみならず自分自身についての気づきが生まれたりすること。

体験活動と表現活動が繰り返される学習過程とは

一連の学習活動の「まとめ」としての単元の中で、以下の①～④の学習過程を基本にして、体験活動と表現活動が繰り返されるようにすること。

- ①： 思いや願いをもつ
- ②： 活動や体験をする
- ③： 感じる・考える
- ④： 表現する・行為する
(伝え合う・振り返る)

※学習過程は、①～④の順序が入れ替わったり複数のプロセスが一体化して同時に行われたりする場合もあります。



内容(2)家庭と生活(活動例)

- 小単元1：自分の1日を見つめよう
- 小単元2：自分でできることをしよう
- 小単元3：これからも続けよう

① 思いや願いをもつ (小単元2)

S：自分でできることをしたいな。

① 思いや願いをもつ (小単元3)

S：家族のために、自分でできることをもっと続けたいな。

④ 表現する・行為する

S1：洗濯物は、こんなふうにパンパンしてから干したよ。(動作化)

S3：どうしてパンパンするの？

S1：しわを伸ばして干せるからだよ。

S3：そうか。干すときのコツだね。

S2：ぼくは、忘れ物をしないように、何回もチェックしたけれど、ほかにいい方法はあるかな。

S4：1時間目から順番に入れると忘れ物が少なくなるよ。(動作化)

S2：授業の準備も早くできそうだね。

T：1時間目から順番に入れると、忘れ物を少なくできるだけでなく、授業の準備も早くできるんですね。

児童の発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通してカリキュラムをデザインすることが大切です。その際には、各教科等との関連を意識して学習活動に反映させ、指導の充実を図りましょう。



Sは児童を、Tは教師を表す。
下線部は、身近な生活に関する見方・考え方を生かし、気づきの質を高めている児童の姿を表す。

② 活動や体験をする

S1：洗濯物を干すぞ。

S2：明日の学校の準備を一人でやるぞ。

③ 感じる・考える

S1：洗濯物はどうすれば上手に干せるかな。

S2：忘れ物をしないように明日の学校の準備をするには、どうすればいいのかな。

☐ は家庭での活動を含む

point 活動や体験の楽しさやそこで気付いたことなどを表現する学習活動（言葉、絵、動作化、劇化など）を適宜位置付け、一人一人の気づきを全員で共有し、みんなで気づきの質を高めていけるように工夫することが大切です。